

平成30年度前期 授業評価アンケート調査結果

■実施科目

Table with 4 main sections: 学部共通科目, 専門基礎科目, 教職課程, and 助産学専攻科. Each section lists subjects and their corresponding years and topics.

■実施目的

本アンケートの実施目的は、学生に授業評価をしてもらうことで、本学の教育の質を維持・向上させることにあります。また、アンケートの質問内容からも分かるように、授業評価を通して学生自身の自己覚知を促し、授業・学習に対する意識向上を図ることも重要な目標の一つとしています。

■質問項目

□授業の運営について

- 問1 毎回実施する授業内容について教員からの説明があった。
問2 授業内容はよくわかった。
問3 教員からのプレゼンテーション（教科書、板書、映像、教材、配布資料等）はわかりやすく、話し方も聞き取りやすかった。

□教員について

- 問4 この授業科目に対する教員の熱意が感じられた。
問5 皆さんへの発言や発問、皆さんからの質問等について教員は適切に対応していた。

□自らの履修態度について

- 問6 熱意をもってこの授業に臨んだ。
問7 この授業で遅刻、欠席、居眠り雑談などをしていない。
問8 総合的にこの授業に満足している。

□自習について

- 問9 実技練習などや、予習復習、レポート等の課題について、この授業で費やした1週間あたりの時間

■回答方法

上記の項目に対して、学生には以下の選択肢の中から一つだけ選んでもらいました。
「そう思う」「どちらともいえない」「そう思わない」

■データの主な傾向

ここで公表しているデータは個々の授業のものではなく、あくまで全対象科目の全回答を集計したものです。従って、全体の結果と各授業の実態が異なる場合があります。学校全体での傾向を把握するものであることをご理解ください。また、下表の数値は全体結果のうち肯定意見についての割合を表しています。（太字部分が集計対象）。

- ①問1～8 「そう思う」「そう思わない」「どちらかといえばそう思う」
②問9 「1時間以下」「2～3時間」「4時間以上」
※今回、理学療法学科・看護学科4年は対象授業がありませんでした。
※臨床検査学科3年生の対象科目は1科目でした。

Large data table with columns for subjects (鍼灸学科, 理学療法学科, 看護学科, 臨床検査学科, 作業療法学科, 臨床工学科) and rows for various evaluation questions. Includes a comparison note at the bottom right: (平成29年度前期アンケート結果と比較)

□自由意見のまとめ

Table with 3 columns: 分類 (Category), 分類の具体的な内容 (Specific content of classification), and 改善してほしい点 (Points for improvement). Rows include: 授業の進め方・話し方, 板書について, 授業時間数・スピード, 副教材について, 授業の環境について, 教科書について, 講師について, 授業の理解度.

平成 30 年度前期 リフレクション・ペーパーの内容について

平成 30 年度前期 公開授業・学生授業アンケートの集計結果を各担当教員に配布し、アンケート結果と授業についての質問を行いました。

(リフレクション・ペーパーとはアンケート集計に対する意見・感想の回答を指します。)

【 質 問 事 項 】

1. 授業を行うに当たって工夫した点
2. 授業を行ってみて良かったと思う点
3. 授業を行ってみて改善を要すると思う点
4. 学生の授業アンケートの結果を、今後どのように授業に反映させようとお考えですか

各教員が提出したリフレクション・ペーパーをもとに授業内容や教育方法などの改善・向上を目的とした組織的な取り組みを始めています。

すべてのリフレクション・ペーパーをご覧になりたい場合は、教務室までお越しください。

【 リフレクション・ペーパーより抜粋 】

1. 授業を行うに当たって工夫した点 p

- 一方的な情報伝達形式にならないよう必ずワークの時間を設けて、自分で資料を読ませ、その日のテーマについて深く考えさせるようにした。また、疑問があっても質問しない傾向が強いので、質問者を決めて当日または日ごろ当該科目に関して思っている疑問を質問させた。
- こちらからの一方通行ではなく学生からの質問や、意見を出しやすい投げかけを行った
- 毎回、パワーポイントによる授業を展開した。ビデオ教材を使用したり、アニメーションを利用することで、学生が、内容を丸覚えするのではなく、内容を理解して、実生活や他教科で習ったこととリンクさせることが出来るように工夫した。
- PowerPointでの授業であったが、ただ聞き流す学生が多く、また、居眠りをする学生も稀にいたため、途中から板書中心の授業展開にした。結果、学生からは不評であり、逆に授業のポイントがわかり辛くなったとの意見をもらった。
- すべての学生がついていけるように、毎回講義の終わりに、その時間内で聞いた内容で必ず解ける問題を練習問題という形で国家試験出題問題に準拠した問題から解いてもらい、知識の整理および早いうちから国家試験問題に慣れていけるようにした。
- 自宅等で一人でもできるように、テキストのどこに記載があるか、テキストの説明が不十分な場合は書き加えることを追加で伝えて、一人で行えるようなフォローをした。

2. 授業を行ってみて良かったと思う点

- 小テストを初めて取り入れた。その結果、授業中の集中度 UP と授業外での勉強 UP に繋がった。
- 学生の顔を見て授業を進めていくときに、分からない様な顔をしている学生にあえて質問をしてもう一度説明することで、全体の理解力がアップした点です。
- 再試験対象者が出ることなく、最低限の学習目標に全員が到達できた点。
- 1つの説明が終了した後に国試問題を入れ刺激をしたことで寝る学生が少なかった。
- 教員が想像する臨床と学生が想像する臨床の場面の相違がみえた。
- 工夫した点に記載した通り、学生の方を見て話をするようにしたところ、「今の話し方ではうまく伝わっていないな」または「しっかり理解してもらえたな」など、学生の表情から察することができるようになった。また、目が合うことで発言しやすくなったのか、学生からの質問も昨年と比べて増加したように感じました。
- 小テストをこまめに行い、中間・期末テストに向けた勉強のやり方を具体的に伝えた結果、自宅学習は効率よく行うことができたことが、中間・期末テストの結果からうかがえる。
- 学生達が講義中の質疑応答から新たな疑問を抱き、その内容を手分けして調べてまとめ上げ、教員に対して、学生自身が講義を行った。学術的専門分野が異なる教員と学生が、それぞれの専門性から同じ生命現象（この時は骨粗しょう症であったが）について講義し合った経験は、私自身非常に楽しい学びであった。

3. 授業を行ってみて改善を要すると思う点

- 毎回そうなのですが、講義内容の難易度について設定が難しく感じる場合があります。もっともっと、授業を立体的にかつ身近な例を取り入れるなど工夫をしてイメージしやすい教材を作成する必要があると感じています。
- 限られた時間に最大の情報を伝えようとすると、どうしても早口になるのは自分の欠点なので注意したいと思います。
- 学生への投げかけ方を柔らかくしたり、講義の強弱をつけたつもりが集中力が途切れるので「笑い」は要らないとの一意見があった。今後の参考にしたい
- プリントの流れと実際の授業の流れが異なることがあり、学生を混乱させたことがあったので、修正していきたい。
- 演習前後にレポートを課しているが、他の教科目の課題もあり時間に追われるためか、内容を理解しないまま埋めてきているだけのレポートが非常に多い。また、演習後のレポートは特に考察が考察になっておらず、テキストに記載されている留意点や教員が口頭で強調した点を学びとして記述しているものが目立つ。今後は演習で経験したことに基づいたレポートが作成できるような工夫が必要であると考えます。
- 学習に対して与えられることに慣れており、もっと主体的に学習できるような工夫は必要である。
- せっかく学生に購入させたので、もう少し教科書を使う機会を増やしても良かった。

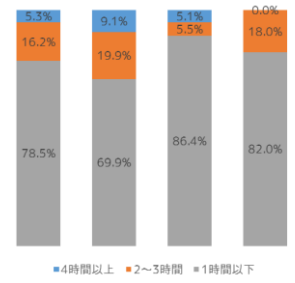
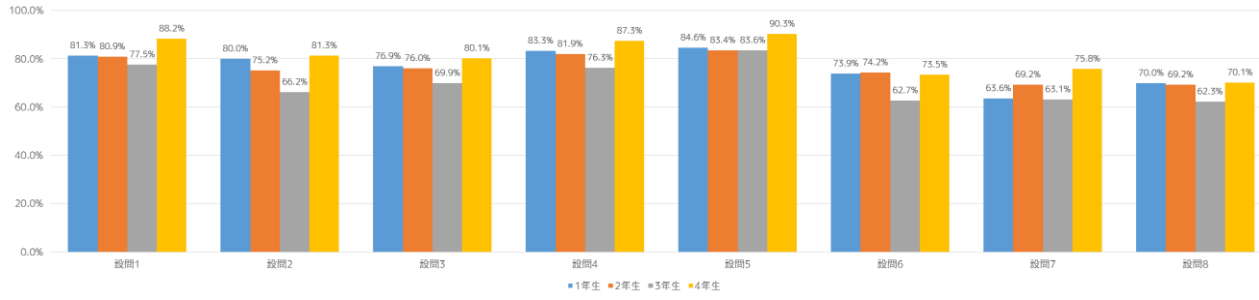
4. 学生の授業アンケートの結果を、今後どのように授業に反映させようとお考えですか

- 授業中の学生の作業や質疑応答を増やし、参加型の授業にしていきたい。
- 例年、演習は複数名で担当し、講義は主担当教員が担当してきたが、今年度は講義も複数の教員が入れ替わりで担当した。いろんな教員の伝え方によって視野を広げて教授できることを期待していたが、学生からすれば、講義と演習のつながりや内容がパターンとして定まらず、戸惑いがあったのではないかと考える。担当教員が変わっても、1つの教科目を担当するという観点から、一貫性を教員間で確認した上で授業の方法論を検討すべきであると思う。次年度は、この点を改善する、あるいは、講義担当者を従来どおり主担当教員のみにするすることで、学生が効果的に授業に臨めるようにしたい。
- 講義中に居眠り等態度面の注意をすると、ごく一部の学生であるが、アンケートに名指しで「辞めろ」と記載されることがある。とても心が傷つくので、あまり注意したくないなという思いになってしまう。前向きな学生の意見には応えようと毎回努力をしているつもりである。
- あまり注意しないといった指摘に対しては、数年すれば先生と患者から言われる立場であり学生をある程度大人とみていた。しかし厳しくした方がいいという生徒からの要望があるのならば今後は注意することに加え授業態度も評価に影響させることを考慮するとする。
- 私の講義内では、積極的に発言して頂いて良い。少人数の利点を活かして教員と学生の議論が起こる講義を学生と協力し行いたい。

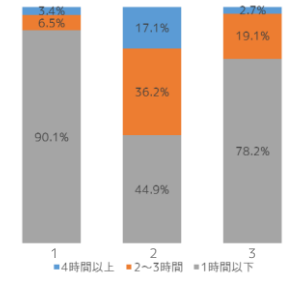
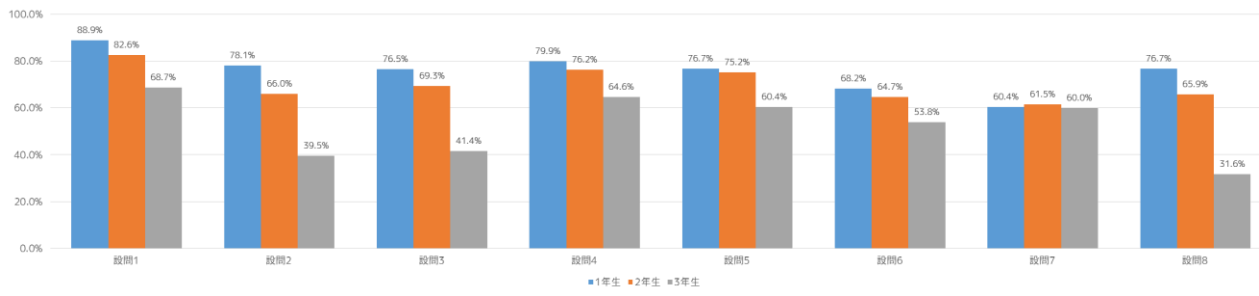
平成30年度前期 授業アンケート調査結果 (肯定意見 学科別内訳)

- 問1 毎回実施する授業内容について教員からの説明があった。
 問2 授業内容はよくわかった。
 問3 教員からのプレゼンテーション（教科書、板書、映像、教材、配布資料等）はわかりやすく、話し方も聞き取りやすかった。
 問4 この授業科目に対する教員の熱意が感じられた。
 問5 皆さんへの発言や発問、皆さんからの質問等について教員は適切に対応していた。
 問6 熱意をもってこの授業に臨んだ。
 問7 この授業で遅刻、欠席、居残り雑談などをしていない。
 問8 総合的にこの授業に満足している。
 問9 実技練習などや、予習復習、レポート等の課題について、この授業で費やした1週間あたりの時間

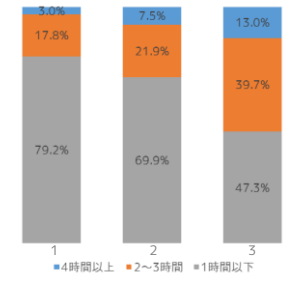
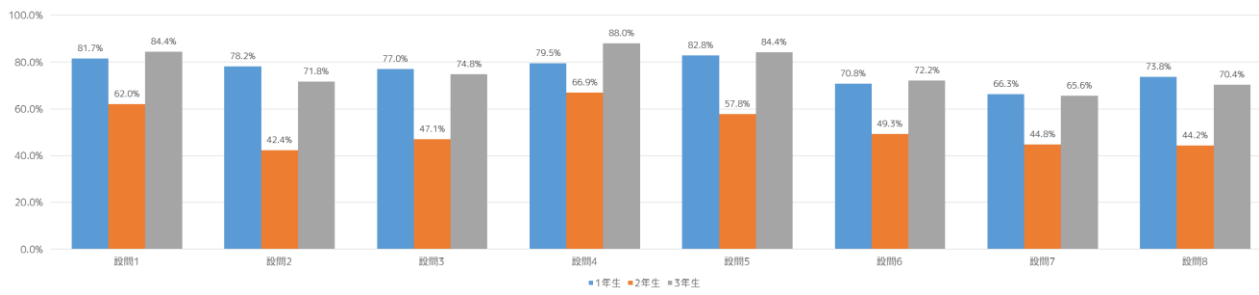
鍼灸学科



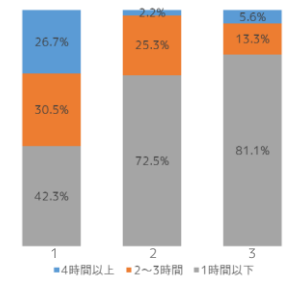
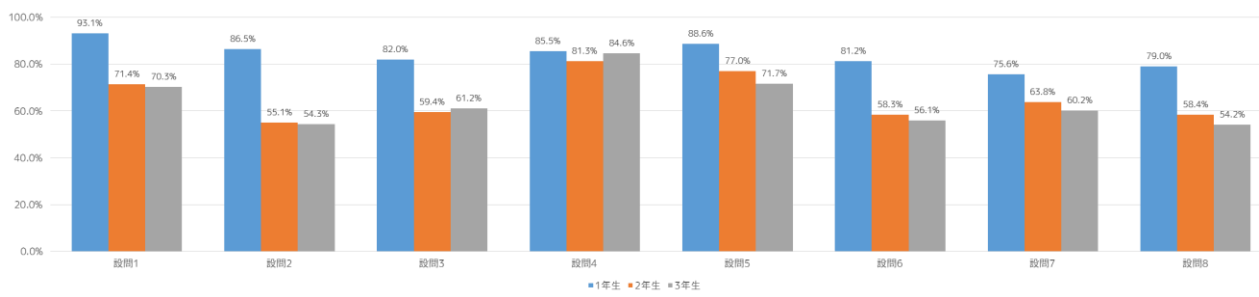
理学療法学科



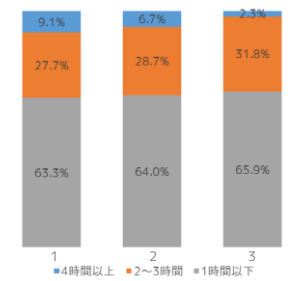
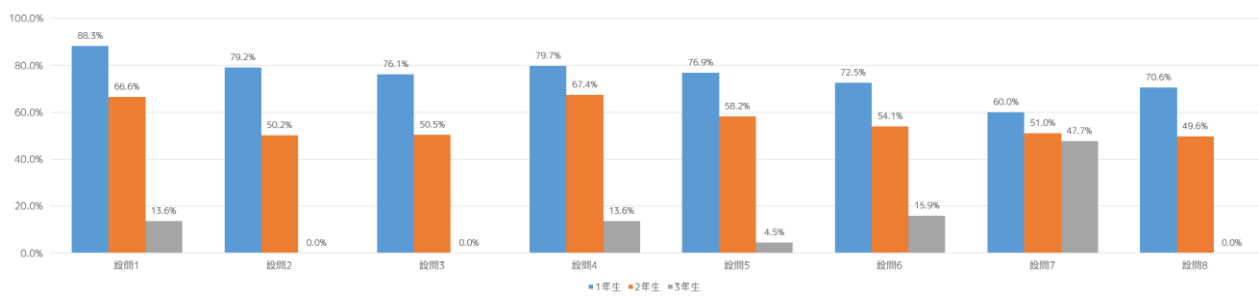
看護学科



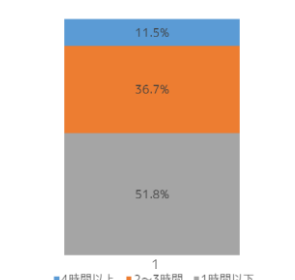
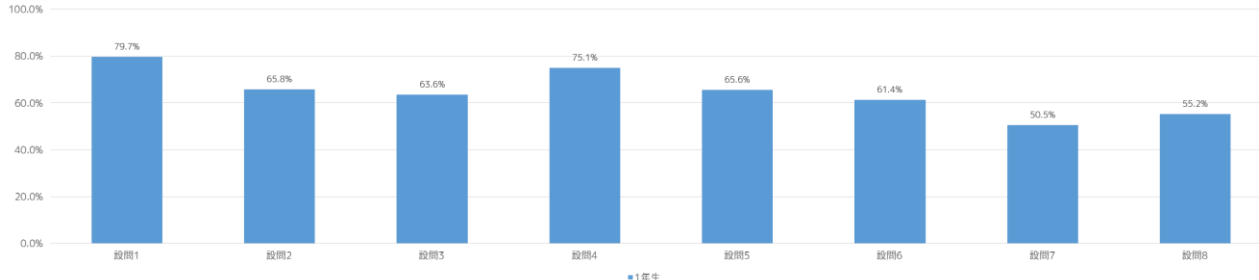
作業療法学科



臨床検査学科 ※3年生の対象科目は1科目のみのため、極端な結果になっています



臨床工学科



平成 30 年度後期 リフレクション・ペーパーの内容について

平成 30 年度後期 公開授業・学生授業アンケートの集計結果を各担当教員に配布し、アンケート結果と授業についての質問を行いました。
(リフレクション・ペーパーとはアンケート集計に対する意見・感想の回答を指します。)

【 質 問 事 項 】

1. 授業を行うに当たって工夫した点
2. 授業を行ってみて良かったと思う点
3. 授業を行ってみて改善を要すると思う点
4. 学生の授業アンケートの結果を、今後どのように授業に反映させようとお考えですか

各教員が提出したリフレクション・ペーパーをもとに授業内容や教育方法などの改善・向上を目的とした組織的な取組みを始めています。
すべてのリフレクション・ペーパーをご覧になりたい場合は、教務室までお越しください。

【 リフレクション・ペーパーより抜粋 】

1. 授業を行うに当たって工夫した点

- 1 回毎の授業のなか、ひいては 15 回の授業全体を通じて緩急をつけているので、学生達には絶対とりこぼしてはいけないポイントを自分たちで判断できるようになってほしいと思っています。
- 確認テストを毎回行い、解説に時間をかけて、前回の復習をしっかりとできるようにしました。
- 学生が記入するコメントシート(15 回分)が 学生 ⇄ 教師の繋がりになるように、質問などは補足説明し、励ましなどのコメントも書いた。
- 学生の自宅での学習時間が少ないこと、あるいはほとんどしていないことを考慮し、まず復習から始めている。その後に小テストにて知識の確認をしている。
- 臨床場面を想定した課題とし、患者さんに説明するような言葉で書かせることで、理解力が深まるように努めた。
- 授業は、30 分ごとに分け、繋がりを持たせつつ変化のある授業内容を行うようにした。
- 学生に、読む・書く・話す・聞くの 4 技能をいれた授業を行った。
- PPT 資料の作成にあたって、できるだけ学生が興味を持てる素材を探して視覚的にも内容が伝わりやすいよう心がけました。

2. 授業を行ってみて良かったと思う点

- とても熱心に授業に取り組んでくれている学生が増えてきたと思います。昨年度から試験の難易度をあげていますが、しっかりとついてきてくれていました。
- 熱心な学生においては、体験型学習方法はピット記憶として残され、理解を深め、疑問点や創造性を表出できるようになってきました。
- 小テストなどを通して、学生の理解度をある程度把握し、フィードバックできた点。
- 学生が、発表のため、よく下調べをして、授業に臨んでくれたと思う。
- 熱心な学生においては、体験型学習方法はピット記憶として残され、理解を深め、疑問点や創造性を表出できるようになってきました。

3. 授業を行ってみて改善を要すると思う点

- 自分の中で「寝る学生ゼロ運動」を行っていて、寝ている学生がいれば起きるように促したり、興味を持てるような授業展開を心掛けているが、それでも 1 限目(本アンケート対象クラス)や体育の授業の後などのコマでは寝る学生が少なからずいる。来年度は、本当にゼロにできるよう、内容を検討していきたい。
- ご指摘があったかと思いますが、時間配分と実技内容。
- なじみのない言葉が多いこともあり板書なしでは理解が追いつかない学生もいるため、1 年生で習っている内容であっても板書は必要になってくること。
- すべてにおいて、力不足を感じた。具体的に挙げるならば、学生が興味を抱くような方向に授業を進められなかったこと、授業のつながりが良くなかったこと、良い意味での緊張感を維持できなかったこと。
- 教える内容が多くて、説明が浅くなってしまいう講義があり、テーマを絞るなどの工夫が必要だと思います。
- 一方的に話をする授業が多くなっていったようである。今後は、学生と授業内容に関する意見を交換したり、質問の受け答えの機会を授業内でも増やしたりし、教員が「一方的に覚えさせる」授業よりも「学生が自分で考えて理解する」ことが出来るような授業を組み立てていく。

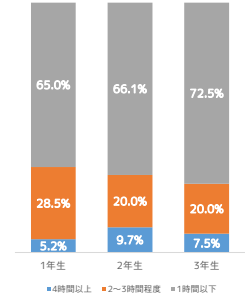
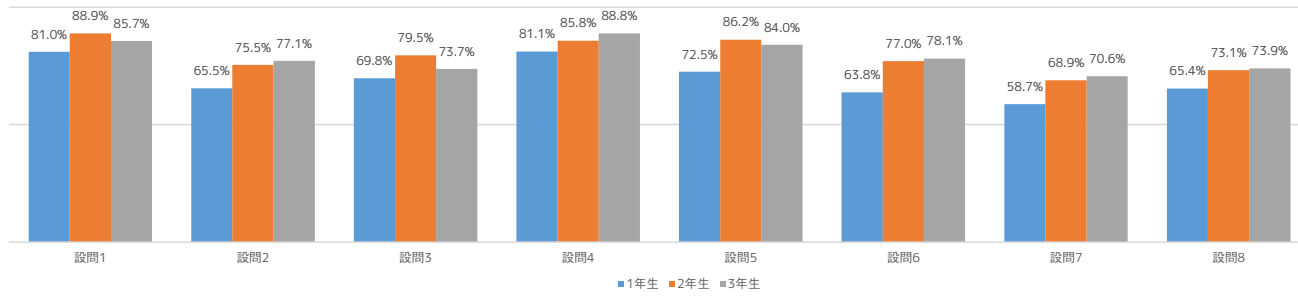
4. 学生の授業アンケートの結果を、今後どのように授業に反映させようとお考えですか

- 比較的肯定的な意見でしたが、身体に染みつく技術を伝えられたと思います。
- 進め方が早いという指摘があったので、内容をしぼり、丁寧に教えていくように工夫したいです。
- アンケートでは内容理解が低いものの、毎回行う小テストでは理解度は概ね良好であり、期末テストでも平均 70 点と求めるレベルに達している。これはおそらく初めて耳にする用語とその量の多さから難しさを感じていると考える。難解さを感じさせないような工夫をしていく。
- 自分では板書の字は大きく、消すタイミングも学生の記述スピードに合わせて消していたつもりだったが、今回のアンケートで板書に対する改善を求める声が非常に多かった。板書量が多いことも要因となっているため、レジュメを作成するなどの工夫も必要だと思う。
- 学生との温度差を感じました。今後は、もう少し表現方法を工夫していきたいと思っています。
- ちぐはぐな授業になっているのは自分でも感じており、うまく修正できずにいたため、それが学生の方にしっかり伝わってしまったように思う。
- 授業の構成の関係で、学生の方々に議論に加わってもらったり、発言してもらったりする時間が少なかったと、私も反省していました。ご指摘を素直に受け止め、今後、授業の思いがけない展開にも対処できるよう、私自身の勉強を深めていきたいと思っています。
- 学生が寝てしまうのは自分の講義に魅力がないせいだと思っているので、あまり注意をしませんでしたが、ご参観いただいた先生方の御意見を伺い、今後、授業中に寝ている学生にはもう少し声をかけたほうがいいのかと思っています。

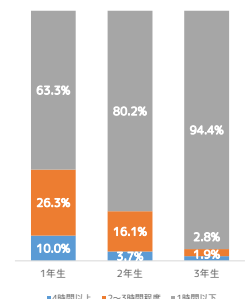
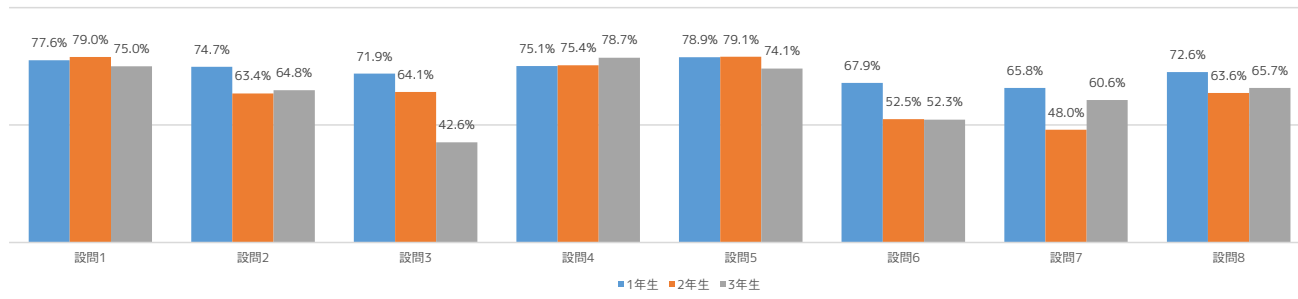
平成30年度後期 授業アンケート調査結果 (肯定意見 学科別内訳)

- 問1 毎回実施する授業内容について教員からの説明があった。
- 問2 授業内容はよくわかった。
- 問3 教員からのプレゼンテーション(教科書、板書、映像、教材、配布資料等)はわかりやすく、話し方も聞き取りやすかった。
- 問4 この授業科目に対する教員の熱意が感じられた。
- 問5 皆さんへの発言や発問、皆さんからの質問等について教員は適切に対応していた。
- 問6 熱意をもってこの授業に臨んだ。
- 問7 この授業で遅刻、欠席、居眠り確認などをしていない。
- 問8 総合的にこの授業に満足している。
- 問9 実技練習などや、予習復習、レポート等の課題について、この授業で費やした1週間あたりの時間

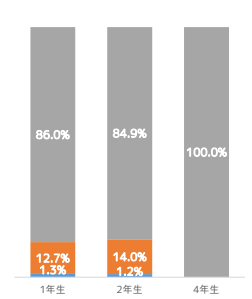
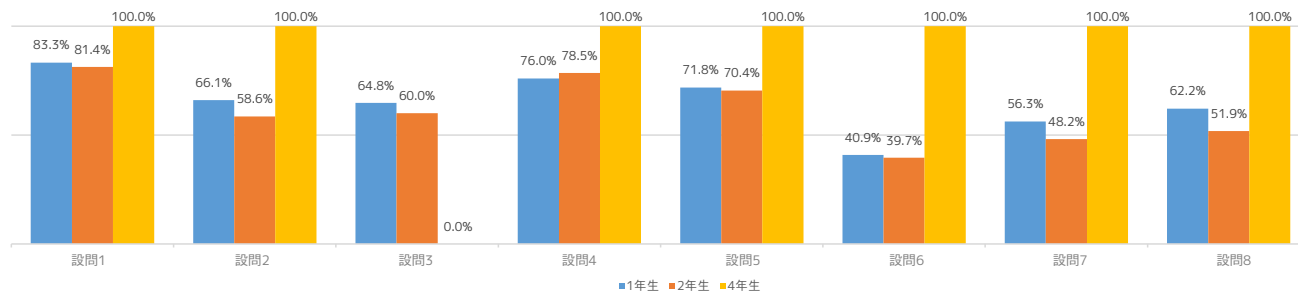
■鍼灸学科



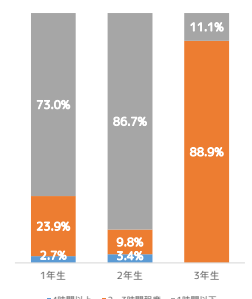
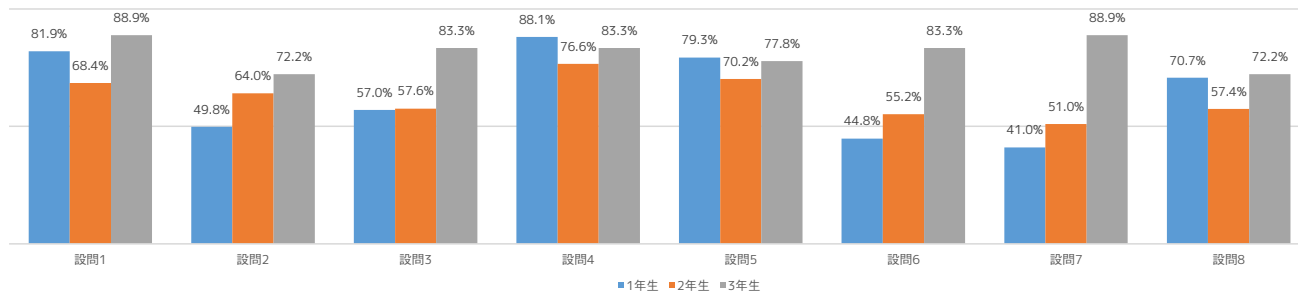
■理学療法学科



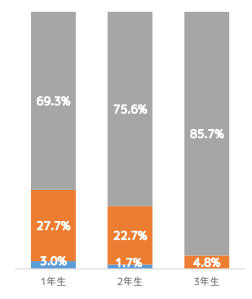
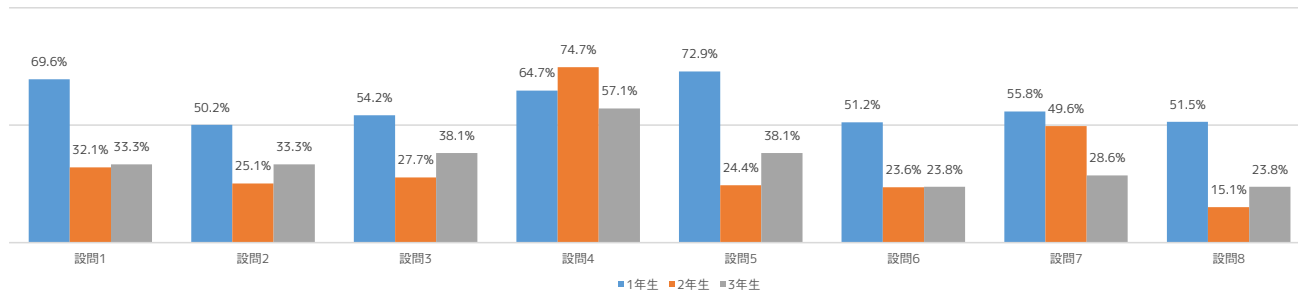
■看護学科



■作業療法学科



■臨床検査学科



■臨床工学科

